

15 古典 (1)

テーマ

訓読の方法

漢文は、もともと漢字だけで書かれた中国語の文章で、語順も日本語とは異なります。これを日本語として読むことを訓読といいます。漢文の勉強は、まずこの訓読の方法を学ぶことから始まります。

1 漢文の訓読

訓読とは、漢字だけで書かれた原文(白文)に、「訓点」とよばれるさまざまな符号を付けて、日本語の文章として読むこと。また、訓読した漢文を日本語として書き記したものを「書き下し文」という。漢文を書き下し文にする際は、漢字は漢字のまま、送りがなはひらがなに直して書く。ただし、助詞や助動詞は、漢字で書かれていてもひらがなに直す。訓点には、以下のようなものがある。

・ 送りがな…それぞれの漢字の右下に、カタカナで小さく書かれる。

例 江^{かう} 碧^{みどり} 鳥^{ニシテ} 逾^{いよいよ} 白^ク ↓ 江碧にして鳥いよいよ白く

・ 返り点…漢字を読む順番を示す符号で、漢字の左下に付く。漢文は基本的に上から下へと読むが、漢字に返り点が付いているときは、そのルールに従った順序で読む。

① レ点…「レ」の付いた字の下の字を先に読んでから、「レ」の付いた字に返って読む。

例 着^レ 席^ニ ↓ 席に着く。

② 一・二点…「二」の付いた字はまず読み飛ばし、「一」の付いた字を

読んだあとに、「二」の付いた字に返って読む。

例 待^ニ 天^ニ 命^一。 ↓ 天命を待つ。

③ レ点…「二」点と「レ」点とが組み合わさったもの。先に下の字を

読んでから一字返って読み、さらに「二」の付いた字へ返って読む。

例 為^{ナル} 人^ノ 所^ト 欺^{あざむク}。 ↓ 人の欺く所と為る。

例題

(1) 次の□を返り点に従って読む場合、どのような順番で読むのが適切ですか。例にならって□に番号を書きなさい。

例 □^レ □^二 □^一 □^レ □^二 □^一

② □ □ □ □ □
 ① □ □ □ □ □

解法のポイント

(1) 返り点 ① 「レ」の付いた字は、下の字を先に読んだあとに一字返って読みます。ここでは「レ」の付いた字が二つ続いているので、二つ目の「レ」の下の字から順ぐりに返って読みます。② 「一」の付いた字を読んだあと、「二」の付いた字に返って読みます。

(解答) ① ③ ② ① ④

② ① ④ ② ③

細部まで読み取る

古文の文章には、現代語にはないさまざまな特徴があります。ここでは古文の特徴をおさえ、細部まで読み取っていくための注意点を学んでいきます。

1 古文の特徴

① 省略された語

古文では、主語、述語、助詞などが、しばしば省略される。文脈を考えて、省略されていることばを補いながら読むことを心がけること。

「が」が省略されている。

例 昔、男ありけり。

② 古語の意味

古文には、現代語にないことばや、現代語と同じ音で意味が異なることばがある。代表的なもの覚えよう。

現代語にはないことば

- ・あまた…たくさん。
- ・いと…たいそう。
- ・かく…こう。
- ・さらなり…いうまでもない。
- ・のたまふ…おっしゃる。
- ・らうたし…かわいらしい。
- ・あらまほし…そうありがたい。
- ・いみじ…とても。すごい。
- ・げに…本当に。全く。
- ・つきづきし…似つかわしい。
- ・ゆかし…知りたい。
- ・わりなし…道理に合わない。
- ・あらがたし…めったにない。
- ・おどろく…目を覚ます。気がつく。
- ・かなし…いとしい。愛らしい。

現代語とは意味が異なることば

- ・あはれなり…趣が深い。
- ・うつくし…かわいらしい。
- ・かしこし…高貴だ。恐れ多い。

③ 古文の文末表現

古文の読み取りを難しくしていることの一つに、文末に付く助動詞の現代語とのちがひがある。古語の助動詞についてきちんと学ぶのは高校生になつてからだだが、代表的なものは覚えておくことよ。

- ・「けり」…「した。」(過去の動作であることを表す)
- ・「たり」…「した。」(動作の完了や継続を表す)
- ・「ぬ」…「した。」(動作の完了を表す。打ち消しの「ず」が変化したものとちがうので注意)
- ・「なり」…「した。」(断定を表す)
- ・「ん(む)」…「した。」(推量や意志を表す)
- ・「ばや」…「したい。」(願望を表す)

④ 係り結び

文中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」が出てきたときに、文末が言い切りとは異なる形になる古文独特の法則。

例 世の中はかくこそありけれ

「けり」が「けれ」に変化

- ・ののしる…大騒ぎをする。
- ・めでたし…すばらしい。
- ・一まよめ形で覚えておくことば
- ・え〜ず(じ)…できない。(できないだろう)
- ・え申さず…申すことができない。
- ・な〜そ…〜しないでください。
- ・はづかし…立派だ。
- ・をかし…おもしろく、趣深い。

例題

江^{かう} 碧^{みどりニシテ} 鳥^{いよいよ} 逾^{いよいよ} 白^ク
江碧にして鳥いよいよ白く

山^{クシテ} 青^{ほつス} 花^{も エント} 欲^レ 然^{も エント}
山青くして花[※]

今^{みすみす} 春^{また} 看^{また} 又^グ 過^グ
今春*みすみす又過ぐ

何^{いづレノ} 日^カ 是^{コレ} 帰^き 年^{ねんナラン}
何れの日か是れ帰年ならん

(注) みすみす⇨空しく。

(1) この詩の形式を漢字四字で書いて答えなさい。

(2) ※に入る書き下し文を書いて答えなさい。

(3) この詩の主題を書いて答えなさい。

(4) この詩は、「詩聖」と呼ばれる唐の詩人、杜甫の詩です。杜甫と並び称される、「詩仙」と呼ばれる詩人を次から一人選び、記号で答えなさい。

- ア 孔子^{こうし}
- イ 李白^{りはく}
- ウ 孟子^{もうし}
- エ 白居易^{はくきょい}

解法のポイント

(1) 漢詩の形式として代表的なものに次の四つがあります。

- 五言絶句：各句（各行）がすべて五字で、四句（四行）から成る。
 - 七言絶句：各句（各行）がすべて七字で、四句（四行）から成る。
 - 五言律詩：各句（各行）がすべて五字で、八句（八行）から成る。
 - 七言律詩：各句（各行）がすべて七字で、八句（八行）から成る。
- この詩の形式は五言絶句です。

(2) 返り点 漢詩、漢文を日本人に読みやすくするために用いられる記号

を「返り点」と言います。また、さらに読みやすくするため、カタカナで送りがないを送り、ひらがなでふりがなを振ります。

● レ点：一字だけに返る。

例 「読^ム書^ヲ」↓「書^ヲ読^ム」

● 一・二点：二字以上、上に返る。

例 「思^フ故^郷」↓「故郷^ヲ思^フ」

このほかに「上中下点」「甲乙丙点」などの返り点があります。「欲^{ほつス}然^{も エント}」は、レ点で一字上に返るので「然えんと欲す」と書き下して読みます。

(3) 主題 杜甫は戦乱に追われ、各地を転々となりました。この詩は、異郷にあって、故郷を恋しく思う気持ちを歌ったものです。

◆現代語訳◆

錦江（という川）の水は深い緑色に静まり、（その水面に浮かぶ）鳥の姿は（緑との対比で）ひととき白い。山々は青葉に包まれ、その緑の中に燃え立つような真紅の花が咲いている。今年の春もこうして、見る間に無駄に過ぎて行くのだ。私が故郷へ帰れる日はいつのことだろうか。

(4) 文学史 唐の大詩人には、「詩聖」といわれた杜甫、「詩仙」といわれた李白のほかに、白居易（白樂天）、王维などがいて、日本の文学にも大きな影響を与えました。

確認問題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある犬、肉を ^Aくはへて河を渡る。まん中ほどにて、その影、水に映りて大きに見えければ、「わがくはふる所の肉より大きな」と心得て、¹これを捨ててかれを取らんとす。かかるが ^Bゆゑに、二つながらこれを ²失ふ。そのごとく、*重欲心の輩は、他の財をうらやみ、事にふれてむさぼるほどに、たちまち天罰をかうむる。わが持つ所の財をも失ふ事ありけり。

〔伊曾保物語〕より

(注) 重欲心の輩＝非常に欲張りな人。

□ (1) **かなづかい** — 線 A 「くはへて」、B 「ゆゑ」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

A	B
---	---

□ (2) **内容理解** — 線 ① 「これを捨ててかれを取らんとす」とありますが、犬がこのような行動をとった理由を次のようにまとめた場合、に入る最も適切なことばを書いて答えなさい。
〈自分がくわえている肉よりも、から〉

□ (3) **内容理解** — 線 ② 「失ふ」とありますが、①何が、②何を「失ふ」のですか。それぞれ古文中から漢字一字で書き抜いて答えなさい。

①	②
---	---

□ (4) **構成** — 古全文体を内容の上から、出来事を述べた前半部と作者の考えを述べた後半部の二つに分ける場合、どこで分けるのが最も適切ですか。古文中から、後半部の最初の五字を書き抜いて答えなさい。

□ (5) **主題** — 本文から読み取れる教訓として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 二つのことを追い求めたりせずに、目標は一つに定めないといけない。
- イ 一度失ってしまったものを未練がましく追い求めるのはよくない。
- ウ 他人が持っているものをうらやんだりして、欲におぼれてはいけない。
- エ どんなことに対しても、失敗のないように用心深く取り組まなければならない。

--

2 **書き下し文** 次のそれぞれの漢文の書き下し文を書いて答えなさい。

□ (1) 家書 抵 ^{あた} 万金 ^ニ

--

□ (2) 低 ^た 頭 ^レ 思 ^ニ 故郷 ^ヲ

--

□ (3) 走 ^ラ 馬 ^セ 西来 ^ヲ 欲 ^ス 到 ^{いた} 天 ^{ラント}

--